

・・・168



野々村さん。水たまりにとびこんだカエル、気持ちがよさそうだな、と思ったのですね。そういえば、私が小学生だったころ、梅雨のころには小さなカエルがビョンビョンはねていました。道、校庭、そして学校の廊下や教室でもはねていました。小指の先くらいのカエルです。ある日、そのカエルをどんとんとらえ、好きだった女の子の長

水たまりチヨボンとカエルいいきもち
亀岡市・千代川小4年 野々村優子
グランパを元気にしてね四ツ葉さん
京都市・松ヶ崎小4年 渡邊 瑞加
一ミリの赤ちゃんバツタおめでどう
京都市・嵯峨野小3年 西田 翔

靴に入れました。どうしてそんなことをしたのか。女の子の気をひこうとしたのでしょうか。「わあっ、おもしろー」と喜んでもらいたかったのです、きっと。私は4年生でした。カエルが入っていることを知らずに長靴をはこうとした女の子は、「わあっ!」とさけびました。靴からビョンビョンとカエルがとびだしたのですから、びっくりするのはあたりまえ。女の子ははげしく泣きました。その日の放課後、私は先生に連れられて、その子の家へあやまりに行きました。でも、今でもまだ、悪いことをした、女の子をいじめた、という気はしません。以上、私のカエルの思い出です。渡邊さん。四ツ葉のクローバーの力で、グランパは元気になったでしょうか。四ツ葉をもらってうれしそうにしているグランパが目につかびます。西田さん。一ミリの赤ちゃんバツタ、私はまだ見たことがありません。そのバツタはもうすっかりバツタのかたちでしょうか。「朝顔と朝日が仲よく生まれたよ」も西田さんの作。西田さんのまわりではいろんなものが生まれているんですね。(俳人・佛光大教授 坪内稔典)

カエルもバツタも元気だね



ねんてん先生の
575

小学生の俳句を募っています。作品3点までと、住所、氏名、学校名、学年、電話番号を明記し〒604-8577 京都新聞文化報道部「ねんてん先生の575」係。メールは575haiku@mb.kyoto-np.co.jp 3カ月に1度、掲載作品から優秀作を選びます。

京都新聞 検索 本紙ホームページでも紹介しています。